

正誤訂正表

1. 鉄筋コンクリートに関わる法令ならびに規格・基準

ページ	行	誤	正
3	下から 6 行	が分類番号, 下 2 桁 (03) が分類ごとの一貫番号	が分類番号, 下 2 桁 (08) が分類ごとの一貫番号

2. コンクリートに関わる用語

ページ	行	誤	正
12	表 2.2.10(1) 中「軽量コンクリート」部分	①1 種は設計基準強度 35N/mm^2 以下	①1 種は設計基準強度 36N/mm^2 以下
16	表 2.2.10(5) 中「再生骨材コンクリート」部分	(2) JIS A 5022 (再生骨材 <u>H</u> を用いたコンクリート) 附属書 A (規定) (コンクリート用再生骨材 <u>M</u>) に適合する再生骨材 <u>M</u> を用いるコンクリートの設計基準強度は, 33N/mm^2 以下とし, 特記による.	(2) JIS A 5022 (再生骨材 <u>M</u> を用いたコンクリート) 附属書 A (規定) (コンクリート用再生骨材 <u>M</u>) に適合する再生骨材 <u>M</u> を用いるコンクリートの設計基準強度は, 30N/mm^2 以下とし, 特記による.

3. 鉄筋コンクリート工事の概要

ページ	行	誤																												
27	表 3.5.2 中	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">荷重の種類</th> <th>荷重の値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">鉛直荷重</td> <td rowspan="3">固定荷重</td> <td>普通コンクリート</td> <td>$24\text{kN/m}^3 \times d$</td> <td rowspan="5">d: 部材厚さ 1)作業荷重+衝撃荷重 2)実情による</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート 1 種</td> <td>$20\text{kN/m}^3 \times d$</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート 2 種</td> <td>$18\text{kN/m}^3 \times d$</td> </tr> <tr> <td>型枠重量</td> <td>$0.4\text{kN/m}^3 \times d$</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">積載荷重</td> <td>通常のポンプ工法</td> <td>$1.5\text{kN/m}^3 \times d$</td> </tr> <tr> <td>特殊な打込み工法</td> <td>$1.5\text{kN/m}^3 \times d$ 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">水平荷重</td> <td>型枠がほぼ水平で現場あわせで支保工を組み立てる場合</td> <td>鉛直荷重の 5%</td> <td rowspan="2">労働省産業安全研究所推奨値</td> </tr> <tr> <td>型枠がほぼ水平で工場製作精度で支保工を組み立てる場合</td> <td>鉛直荷重の 2.5%</td> </tr> </tbody> </table>			荷重の種類		荷重の値	備考	鉛直荷重	固定荷重	普通コンクリート	$24\text{kN/m}^3 \times d$	d: 部材厚さ 1)作業荷重+衝撃荷重 2)実情による	軽量コンクリート 1 種	$20\text{kN/m}^3 \times d$	軽量コンクリート 2 種	$18\text{kN/m}^3 \times d$	型枠重量	$0.4\text{kN/m}^3 \times d$	積載荷重	通常のポンプ工法	$1.5\text{kN/m}^3 \times d$	特殊な打込み工法	$1.5\text{kN/m}^3 \times d$ 以上	水平荷重	型枠がほぼ水平で現場あわせで支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 5%	労働省産業安全研究所推奨値	型枠がほぼ水平で工場製作精度で支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 2.5%
		荷重の種類		荷重の値	備考																									
鉛直荷重	固定荷重	普通コンクリート	$24\text{kN/m}^3 \times d$	d: 部材厚さ 1)作業荷重+衝撃荷重 2)実情による																										
		軽量コンクリート 1 種	$20\text{kN/m}^3 \times d$																											
		軽量コンクリート 2 種	$18\text{kN/m}^3 \times d$																											
	型枠重量	$0.4\text{kN/m}^3 \times d$																												
	積載荷重	通常のポンプ工法	$1.5\text{kN/m}^3 \times d$																											
特殊な打込み工法		$1.5\text{kN/m}^3 \times d$ 以上																												
水平荷重	型枠がほぼ水平で現場あわせで支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 5%	労働省産業安全研究所推奨値																											
	型枠がほぼ水平で工場製作精度で支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 2.5%																												
		正																												
		<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">荷重の種類</th> <th>荷重の値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">鉛直荷重</td> <td rowspan="3">固定荷重</td> <td>普通コンクリート</td> <td>$24\text{kN/m}^3 \times d$</td> <td rowspan="5">d: 部材厚さ 作業荷重+衝撃荷重 実情による</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート 1 種</td> <td>$20\text{kN/m}^3 \times d$</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート 2 種</td> <td>$18\text{kN/m}^3 \times d$</td> </tr> <tr> <td>型枠重量</td> <td>0.4kN/m^2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">積載荷重</td> <td>通常のポンプ工法</td> <td>1.5kN/m^2</td> </tr> <tr> <td>特殊な打込み工法</td> <td>1.5kN/m^2 以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">水平荷重</td> <td>型枠がほぼ水平で現場あわせで支保工を組み立てる場合</td> <td>鉛直荷重の 5%</td> <td rowspan="2">労働省産業安全研究所推奨値</td> </tr> <tr> <td>型枠がほぼ水平で工場製作精度で支保工を組み立てる場合</td> <td>鉛直荷重の 2.5%</td> </tr> </tbody> </table>			荷重の種類		荷重の値	備考	鉛直荷重	固定荷重	普通コンクリート	$24\text{kN/m}^3 \times d$	d: 部材厚さ 作業荷重+衝撃荷重 実情による	軽量コンクリート 1 種	$20\text{kN/m}^3 \times d$	軽量コンクリート 2 種	$18\text{kN/m}^3 \times d$	型枠重量	0.4kN/m^2	積載荷重	通常のポンプ工法	1.5kN/m^2	特殊な打込み工法	1.5kN/m^2 以上	水平荷重	型枠がほぼ水平で現場あわせで支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 5%	労働省産業安全研究所推奨値	型枠がほぼ水平で工場製作精度で支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 2.5%
荷重の種類		荷重の値	備考																											
鉛直荷重	固定荷重	普通コンクリート	$24\text{kN/m}^3 \times d$	d: 部材厚さ 作業荷重+衝撃荷重 実情による																										
		軽量コンクリート 1 種	$20\text{kN/m}^3 \times d$																											
		軽量コンクリート 2 種	$18\text{kN/m}^3 \times d$																											
	型枠重量	0.4kN/m^2																												
	積載荷重	通常のポンプ工法	1.5kN/m^2																											
特殊な打込み工法		1.5kN/m^2 以上																												
水平荷重	型枠がほぼ水平で現場あわせで支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 5%	労働省産業安全研究所推奨値																											
	型枠がほぼ水平で工場製作精度で支保工を組み立てる場合	鉛直荷重の 2.5%																												

4. コンクリートの要求品質

ページ	行	誤	正
37	下から 1 行	1 kgf=9.80667	1 kgf=9.80665
38	図 4.2.1 横軸	μ	$\times 10^{-6}$
39	上から 11 行	0~50 μ 程度	0~50 $\times 10^{-6}$ 程度
39	上から 13 行	ひずみ 50 μ 以下	ひずみ 50 $\times 10^{-6}$ 以下
46	図 4.2.9	図 4.2.9 平均気温と「現場封かん養生 91 日強度-標準養生強度」の関係 ^{4.2.9)}	図 4.2.9 平均気温と「現場養生強度-標準養生強度」の関係 ^{4.2.9)}
57	上から 14~15 行	この反応は不可逆反応 (いちど生じるとともに戻らない) である.	この反応は不可逆反応 (いちど生じるとともに戻らない反応) である.
68	下から 5 行	凍結温度が作用する <u>こともちろん</u>	凍結温度が作用する <u>ことはもちろん</u>

5. 材料の確認

ページ	行	誤	正
94	参考文献	5.5.1) . . . 5.5.2) . . . 5.5.3) . . .	5.1.1) . . . 5.1.2) . . . 5.1.3) . . .

7. 荷卸し後のコンクリート工事に関する事項

ページ	行	誤	正
150	図 7.1.4 小見出し	(a) <u>E</u> 減水剤コンクリート (b) <u>性能 AE</u> 減水剤コンクリート	(a) <u>AE</u> 減水剤コンクリート (b) <u>高性能 AE</u> 減水剤コンクリート

8. 品質管理のための試験方法

ページ	行	誤	正
168	図 8.1.1 中	②打設量が 50m ³ 程度の場合	③打設量が 50m ³ 程度の場合
170	下から 1 行	特に <u>夏季</u> には	特に <u>夏期</u> には
176	上から 14 行	<u>重量遮蔽</u> コンクリート	<u>重量</u> コンクリート

資料編

ページ	行	誤	正
190	式(1.9)	$a = \frac{c}{s_x^2} = r \frac{sy}{s_x}$	$a = \frac{c}{s_x^2} = R \frac{S_y}{s_x}$
190	図 1.2 中	縦軸 : <u>(x)</u>	縦軸 : <u>f(x)</u>
191	式(1.12)	範囲 $R = x_{\max} - x_{\min}$	範囲 $r = x_{\max} - x_{\min}$
196	上から 8~10 行	軽量コンクリートの気乾単位容積質量は軽量コンクリート 1 種 (粗骨材に人工軽量骨材を使用したコンクリート) で 1.7~2.1t/m ³ , 軽量コンクリート 2 種 (粗骨材および細骨材に人工軽量骨材を使用したコンクリート) で 1.4~1.7t/m ³ と規定している ^{2,3)} .	軽量コンクリートの気乾単位容積質量は軽量コンクリート 1 種 (粗骨材に人工軽量骨材を使用したコンクリート) で 1.8~2.1t/m ³ , 軽量コンクリート 2 種 (粗骨材および細骨材に人工軽量骨材を使用したコンクリート) で 1.4~1.8t/m ³ と規定している ^{2,3)} .
210	上から 7~8 行	<u>スターラップ筋</u>	<u>あばら筋</u>
210	上から 12 行	<u>フープ筋</u>	<u>帯筋</u>
210	上から 16 行	<u>スターラップ筋</u>	<u>あばら筋</u>
211	上から 7 行	<u>柱フープ筋</u>	<u>柱の帯筋</u>